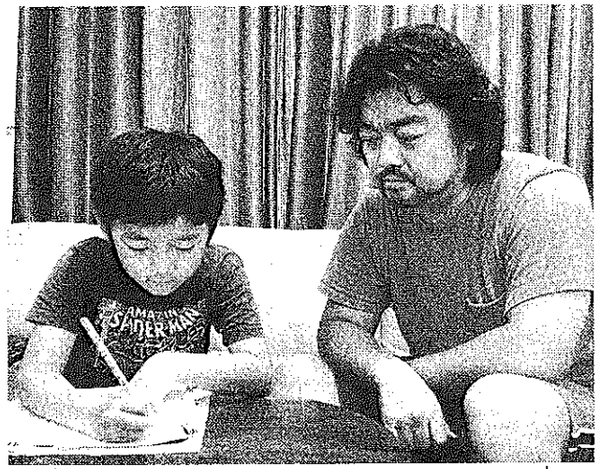
パパイヤ鈴木さんの子育て日記



夏休みの宿題に取り組む息子を見守る

言い方ひとつ

ちょっと変わった先生だった。かけ算を教えるのに使ったのはリンゴ。「鈴木、リンゴが三つある。四倍になったらどうだ?」。僕は「うれしい!!」。先生は満面の笑みで×をつけた。そして、「本当はそれが答えだけはえこひいきをする先生なんだ」。意外にもクラス全員が納得した。

金って高いだろう? だから最後まで吸う」と、流通の仕組みを嫌みを交えて教えてくれた。僕はこの先生が大好きだった。学校は楽しくない場所だったが、先生に会って以来、まったく逆になっていた。

金、ここまでがメーカーの売り上げ、ここからがやっとたばこの料金。税

は「ひろし(僕の本名)、うまく踊ろうとするな。カッコ良く踊れ。お客さんが見たいのはダンスの技術じゃない」。

本番で僕は間違えてしまった。先生はえらい剣幕で近寄ってきた。怒られるかと思ったら、「カッコ良かったぞ。練習したらもっと良くなるな」と言ってくれた。間違ったことを謝ると「間違えって何だ!? 正解がないからな」と意味もなく愉快に笑っていた。

3歳からの性教育
ごまかさず向き合って

「赤ちゃんはどこから来るの?」。ある日突然、幼い子どもが発する素朴な疑問。そんな時、親はどう答えればいいのか―。ごまかさずに対処する方法を、子育てや性教育の専門家に聞いた。(小形佳奈)

「おしっこの最中に『おちんちんが大きくなっちゃった』と言われてうろたえてしまった」。東京都目黒区の子育てサークル定例会。二歳三カ月の男児の母親からの質問に、講師の天野ひかりさんが「不思議だね、と共感し、男の子ならおしっこがまった時は当たり前だということを伝えて」と助言する。

天野さんはかつてNHKの育児番組でキャスターを務めた経験を生かし、各地で親子教室や講演会を開く。「日本人は性とお金の話をタブー視するが、生きていく上で大切なこと」ととらえ、「三歳からの性教育」も主要テーマに掲げる。

家庭の役割重要
事実を分かりやすく話す

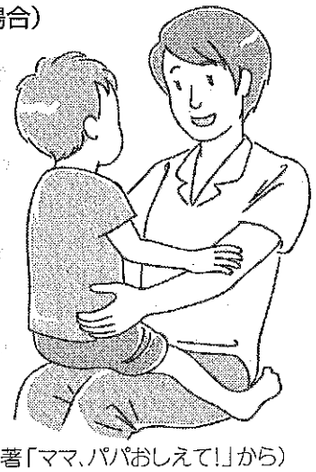
プログラムや、教員向けの「いのちの授業研究会」に講師を派遣している。子どもに生命誕生の素晴らしさ、命がつながる喜びを伝え、自尊感情を高めることが目的だ。

五歳までに80%の子どもが親に「赤ちゃんはどうやって生まれるの」と聞くという。幼児のうちは「お父さんとお母さんが仲良くしたら、おなかに赤ちゃんが来た」「お母さんの命の道を通って自分の力で出てきた」と事実を分かりやすく話し、「生まれてきてくれてありがとう」と伝えて、と大葉さん。

第二次性徴を迎える前、九歳ごろまでにこうした話をすると、その後も家庭内で性について話しやすくなるという。その時期を過ぎた場合は、思春期向けの本をさりげなく置いておくなどの工夫を。保護者が子どもからの質問や相談にきちんと答えられる知識を持つことが大切だ。

天野ひかりさん(左端)から子どもの性教育について学ぶ参加者たち=東京都目黒区で

こんなとき、どう教える?(幼児の場合)



★どうして私にはおちんちんがないの?
女の子だから。ママにもないのよ。

★どうしてパパにはおっぱいがないの?
パパにもあるけど、女の人のおっぱいだけが大きくなるのよ。

★僕は赤ちゃんを産めないの?
男の子には、赤ちゃんが育つお部屋がないから産めないのよ。

★子どもが性器をいじっていたら?
(性的な意味はない。叱らずに)人前で触るのはお行儀が悪いからやめようね。

(高柳美知子著「ママ、パパおしえて!」から)

◆お薦めの本

「赤ちゃんのはなし」(福音館書店)
「おちんちんのえほん」(ポプラ社)
「メグさんの女の子・男の子からだBOOK」(築地書館)
「いつからオトナ? こころ&からだ」(集英社)
「イラスト版10歳からの性教育」(合同出版)
「ライフ 誕生学の現場から」(ポプラ社)

就職活動 漢字1位

就職情報(東京)が来業する大学生を対象に「就字一文字で表尋ねたところ7・4%で「楽」が6「迷」が3・た。この調査年から続いては「楽」が「苦」は二年

あ+